



創立の背景と歴史

中田羽後は、現・日本ホーリネス教団の創始者 中田重治の次男で、アメリカ留学から帰ってからは東京聖書学院などで教鞭をとり、父 重治の編集した『リバイバル唱歌』(1909年)を増補し『リヴィヴル聖歌』(1932年)を出版しています。

また、大羽儔は1901年(明治34)に中田重治が創設した東京聖書学院に入学、ホーリネス教会牧師になります。JOAK(現在のNHK 東京第一放送)の初代アナウンサー「大羽仙外」として活躍し、「唄は世に連れ世は唄に連れ」という名文句は、大羽の口より発せられて日本の慣用語となりました。大阪 NHK への転勤を機にホーリネス教会を離れ、大阪・生野にて独立教会を設立。戦争中には弾圧を受けました。敗戦直後に NHK を辞任し、農村福音神学校設立を夢に群馬県館林に移住していたところを中田に誘われ、千葉県若松町の旧・下志津陸軍飛行学校跡にて学園設立に尽力します。TV や FM 放送を教育に取り入れたのは、視聴覚教育の先駆けでした。

1946年(昭和21)4月24日、〈聖書学院〉の開校式が行なわれました。4月には、小塩力、松尾喜代司が仲間に加わり、中田を含めた3名が中心となって神学校らしい小さな塾が生まれました。のちに馬場嘉市も加わっています。

また、当時の日本は食糧危機にあったため、食糧増産のために飛行場を農地に変える作業が続き、15万坪の開拓が行なわれました。6月には、海外から引き揚げてくるクリスチャンのための農実習科、農村でキリスト教伝道をする人を養成する神学校、そして当時非常に需要が大きかった英語学校をそれぞれ開設、開校しました。

軌道に乗り始めたころ、今後の方針をどうするかということの話し合いが行なわれ、〈聖書農園〉と〈聖書学園〉という2つの事業をしていくことが決定され、聖書学院から〈聖書農学園〉と名称が変更されました。それを機に5月にモンゴルから復員してきた大羽儔の次男弘道も学校づくりに加わり、彼の提案した「神を愛し、人を愛し、土を愛す」が校訓として定められました。

戦前の男女別学の習慣に慣らされた千葉の人々にとって、男女共学ということは大変な問題でしたが、GHQの千葉軍政部の要望が強く、男女共学の中学校高等学校を始めることになりました。ちなみに千葉県で高等学校という名称を用いたのは、聖書学園が一番最初です。

1947年(昭和22)4月に聖書学園中等部・高等部(普通科・商業科・農業科)が開校。中田羽後園長、大羽儔総務、大羽弘道教学部長、小塩力神学部長、中田あさ高等部長、篠原博中等部長がそれぞれ就任しました。1948年(昭和23)3月7日に財団法人聖書農学園として設立認可され、1951年(昭和26)3月7日に学校法人聖書農学園として設置認可されています。

1972年(昭和47)千葉県八千代市村上の現在地に校地移転し、翌1973年(昭和48)4月1日に、校名を〈学校法人聖書学園千葉英和高等学校〉に変更しました。

建学の精神

聖書に依るキリスト教の精神に基づき、神を愛し人を愛し土を愛す豊かな人格を陶冶することにより、自らの存在価値を見出し、真に平和な世界の形成者として愛と奉仕に生きる有為な人物を育成する。

校訓

神を愛し、人を愛し、土を愛す(三愛主義)

・ 神の前に立つ個人として自己を確立し、

与えられた才能を自ら開拓する精神を培う。

・ 広く世界的視野に立ち、人に奉仕する精神を培う。

・ 自然との共生を通して健全な精神を培う。

創立

創立者の一人、中田羽後は、敗戦後の混乱する世情の中で日本を復興させるためにはこれからどうすればいいか、大阪の友人を相談相手として訪ねようと汽車に乗った折、車窓の外に広がる一面の焦土を見ているうちに、強い召命感に突き動かされました。アメリカのロサンゼルス聖書学院、ムーディー聖書学院音楽部で学び、音楽伝道者でもあった中田は、ある「うた」が不意に出てきたと回想しています。「バラバラおちる雨よ、雨よ・・・乾いた土を軟らかにして、きれいな花を咲かすため」。聖書による教育、クリスチャン・スクールをつくることが自分の使命であると、いても立ってもいられなくなるほどでした。

そのときに中田の要請に応じて加わったのが、群馬県館林で農村伝道のために農村福音神学校設立を考えていた、もう一人の創立者 大羽儔です。それに森五郎、田中敬止と豊田喜一が加わり、無一文でしたが5人で建物と土地を探すことから始めました。当初は東京の西方、多摩方面に適地を物色しましたが見つからず、千葉で探すことになりました。

当時、学校の創設のためには駐留軍(GHQ: 連合国最高司令官総司令部)の軍政部と交渉しなければなりません。そのときに通訳をしたのは、のちに校長になる中田あさです。GHQのチャブレン・パーカーは、ホーリネス系教会に属していた牧師とその家族たちが、信仰を守り通すために戦争中どんなに苦勞したか、また、戦後も恵まれない生活の状態であるかを知り、口添えをしてくれました。そのこともあって、1945年(昭和20)12月頃、GHQの千葉軍政部を訪ねた際に、司令官グッディ少佐は学校開設に理解・協力を示し、千葉県若松町の陸軍下志津飛行学校跡地に学園設立の準備を始める運びとなりました。

敗戦後の大混乱の中で私立学校の認可は何の規則もなく、当時の千葉県知事小野哲がグッディ司令官と相談し、27万坪の使用が許可されました。



左が創立者の中田羽後(1896~1974年)
右が大羽儔(1888~1964年)



聖書学園 校章・マーク
3本の纏られた綱を図案化したもので、中田羽後園長の発案。協力を教える聖書の言葉(伝道の書4章12節)「三よりの綱はたやすくは切れない」と、三愛主義を表わすものです。

学校法人 聖書学園

〒276-0028 千葉県八千代市村上709-1

TEL: 047-484-5141 FAX: 047-487-5466